令和 3 年度　東京都内湾水生生物調査　2 月鳥類調査　速報

●実施状況

令和 4 年 2 月 15 日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温 6.0～10.1℃、北風、風速 0～2.0m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 10 時 43 分（93cm）、満潮は 16 時 09 分（170cm）であった（気象庁のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	8:54-10:17	10:57-11:44	12:12-13:37
天候	晴	曇	晴
気温(℃)	6.0	8.4	10.1
風向	-	南東	南東
風速（m/sec）	無風	2.0	1.8
備考	干潟は広く干出。風が無く、波は穏やかだった。	風は弱く、波も穏やか。干潟の干出は少なかった。	風は弱く、波は穏やかだった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった鳥類上位 2 種	カンムリカイツブリ(6247 羽)	ユリカモメ(288 羽)	カワウ(1820 羽)
	スズガモ(3744 羽)	コガモ(73 羽)	スズガモ(422 羽)
備考	・重要種として、16 種を確認。(クロツラヘラサギ、シロチドリ、ハマシギ、ミサゴ等) ・干潟でカワウの群れが休息、サギ類、シロチドリ、イソシギ、ハマシギが採餌。 ・ヨシ原でタシギが休息、クイナの鳴き声を確認。 ・東なぎさの護岸でクロツラヘラサギ 2 羽とホオジロガモ、カワウが休息。 ・海上でスズガモとカンムリカイツブリの群れが休息し、ほとんどが沖合に分布していた。キンクロハジロ、ウミアイサ、アカエリカイツブリ、ハジロカイツブリは沖合だけで確認。	・重要種として、7 種を確認。(ミサゴ、ハイタカ等) ・干潟は狭く、カワウ、アオサギ、ユリカモメ、セグロカモメが休息。 ・カモ類はカルガモとコガモが護岸で休息。調査地南端でオカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロが採餌・休息。 ・護岸でイソシギ、ハクセキレイ、タヒバリが採餌。 ・上空にミサゴとトビ、ハイタカが出現。ハイタカは本調査で初記録。	・重要種として、11 種を確認。(オオバン、ノスリ等) ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。合計 1820 羽、731 巣を確認。 ・アオサギは生息を確認したが繁殖に関する行動は見られなかった。 ・ホシハジロ、スズガモ、ウミアイサなどカモ類とカイツブリ類、オオバンはお台場海浜公園から鳥の島の水面に浮いていた。 ・お台場海浜公園の浜辺でユリカモメが休息。上空を飛ぶ群れも確認。 ・カワセミが護岸で休息。 ・第六台場でノスリが休息、第六台場～お台場海浜公園でトビが飛翔。

●出現種と個体数

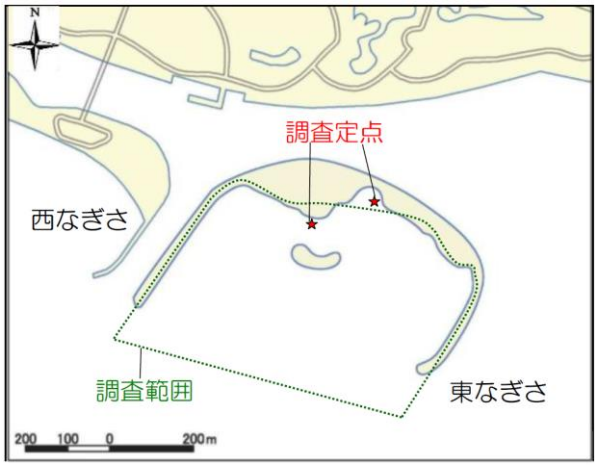
| No. | 目 | 科 | 種名 | 令和3年 | | |

＜葛西人工渚(東なぎさ)＞

〇調査地点の状況

干潟は広く干出していた。

西側の地点より南西方向を見る



〇出現種（クロツラヘラサギ、ホオジロガモ）

護岸で休息するクロツラヘラサギとホオジロガモが確認された。クロツラヘラサギは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類（EN）、東京都レッドリストで絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。ホオジロガモは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

クロツラヘラサギ

ホオジロガモ

〇干潟利用状況

休息するカワウの群れとアオサギ、採餌するダイサギ、コサギ、シロチドリ、イソシギ、ハマシギ、ヨシ原で休息するタシギが見られた。シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類（CR）、ハマシギは環境省レッドリストで準絶滅危惧（NT）、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）、タシギとイソシギは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

干潟から飛び立つカワウの群れ

シロチドリ

タシギ

イソシギ

ハマシギ

〇海面の状況

東なぎさ付近の海上にスズガモとカンムリカイツブリの群れが浮いていたが、ほとんどの個体が沖合に分布しており、調査範囲内にはスズガモ 113 羽とカンムリカイツブリ 267 羽のみであった。

沖合に浮かぶスズガモとカンムリカイツブリの群れ

＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最大干潮時刻の 14 分後から調査を開始した。干潟は比較的狭かった。

○出現種（カモ類）

個体数はコガモが多く、主に調査地南西側の護岸で休息していた。南側の水面ではオカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロが採餌・休息していた。

○出現種（ミサゴ、ハイタカ）

ミサゴ雌雄各 1 羽が上空を飛翔、ハイタカ 1 羽が旋回して西方向に飛び去った。2 種とも環境省レッドリストで準絶滅危惧（NT）、東京都レッドリストで絶滅危惧ＩＢ 類（EN）に指定されている。ハイタカは本調査で初記録となる。

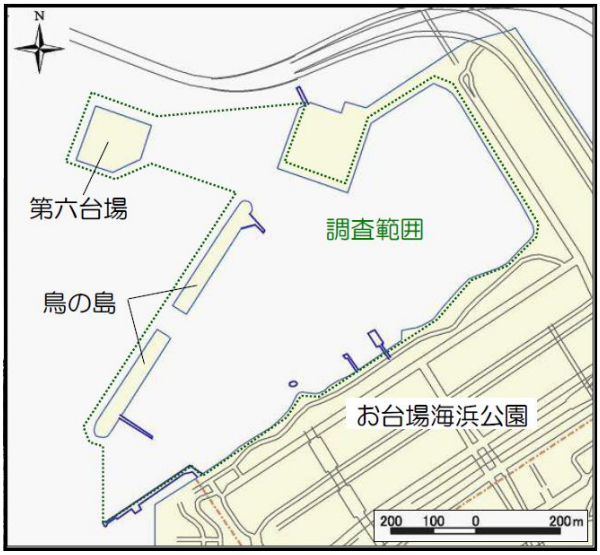
○干潟利用状況

ユリカモメの群れとセグロカモメ、カワウ、アオサギが休息していた。

＜お台場海浜公園＞

〇調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



〇出現種（カワウ）

カワウの個体数は 1820 羽で、営巣数は第六台場が 610 巣、鳥の島が 121 巣、合計 731 巣であった。1 月の 725 羽・700 巣から個体数・営巣数ともに増加した。

大きく育ったカワウのヒナ

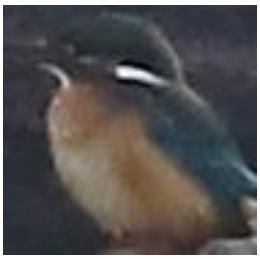
第六台場で営巣中のカワウ

〇出現種（アオサギ）

合計 14 羽が確認された。脚が赤味を帯びた婚姻色の個体が見られたが、繁殖行動や営巣は観察されなかった。

〇出現種（カワセミ）

お台場海浜公園の護岸にとまる 1 羽が見られた。本種は東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。



〇出現種（カモ類、オオバン）

オカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサとオオバンが、お台場海浜公園から鳥の島の海上で確認された。東京都レッドリストでホシハジロは絶滅危惧Ⅱ類（VU）、スズガモは留意種、ウミアイサは情報不足（DD）、オオバンは絶滅危惧ⅠA 類（CR）に指定されている。

スズガモとホシハジロ（矢印）

ウミアイサ

オオバン

＜その他＞

〇ウミネコの繁殖

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 32 羽が確認された。2 月としては個体数が多く、構造物上で休息する個体が見られたが、抱卵など繁殖に関する行動は見られなかった。

構造物とウミネコ

京葉線の高架橋にとまるウミネコ

＜トピックス＞

－夏羽に変わり始めたカイツブリ類 －

カンムリカイツブリとハジロカイツブリは、夏羽と冬羽で羽色が大きく異なる。両種とも冬羽は下面が白く上面は黒褐色であるが、夏羽のハジロカイツブリは頭から首にかけて黒く、目の後方に橙黄色の飾り羽が出る。また、夏羽のカンムリカイツブリは頬に黒色と赤褐色に飾り羽、頭部に冠羽を生じる。1 月の調査では観察された個体のほとんどが白っぽい冬羽であったが、2 月の調査では夏羽に移行中の個体が混じるようになった。

カンムリカイツブリ

ハジロカイツブリ（左はまだ冬羽）